

第4回 「農業金融」に係る意見交換会



農業金融の役割 学生と意見交換

農林中金前橋支店

農林中央金庫前橋支店と日本政策金融公庫前橋支店、下仁田（ミート）（安中市）は3日、「農業金融に関する意見交換会」を高崎市の高崎経済大で開催した。学生など約20人が参加し、農業金融の役割について意見交換が行われた。

前半は、金融機関が農業者に対するアプローチ方法について、企業が事業存続のための金融との関わり方についてそれぞれ説明した。学生は、生産の効率化を進展させる本県での集落営農組織の存立条件について発表した。

後半は、持続可能な農業や農業金融への人工知能

（AI）導入について議論したII写真。リモートで参加したJAおおいた（大分県）の宇都宮隆一常務理事は、集落営農組織を600団体設立した事例を共有した。

農林中央金庫前橋支店の高木克尚副支店長は「発表や意見交換で多くの気付きや学びが得られた。大学と連携し、学びの場として続けていきたい」と話した。

※ 上毛新聞 2025年10月21日（火）付。

※ 許諾を得ております。

第4回 「農業金融」に係る意見交換会

農業金融の 役割を理解

農林中金前橋支店
高崎経大で意見交換

【農林中金】農林中
央金庫前橋支店は10月
上旬、日本政策金融公
庫前橋支店、下仁田ミ
ート㈱と高崎市の高崎
経済大学で「農業金融
に関する意見交換会」
を開いた。意見交換会
は「学生向け学習・研
究支援プログラム助
成」の活用したもの。

意見交換会は、同大
学の学生に、食料・農
業・農村基本法などを
根拠に農業行政が推進
される過程で農業金融
の果たす役割の理解を

深めてもらうために開
催。学生や各団体の職
員約20人が参加し、農
業金融の役割とは何
か、衰退している農業
・農村社会が抱える問
題に対し金融機関がで
きることは何かなどの
意見交換が行われた。
また、農業金融にお



参加者にあいさつする水口剛学長

ける人工知能(AI)
活用の現状についても
議論をし、スマート農
業に対する興味も示さ
た。リモートで参加し
たJAおおいたの宇都
宮隆一常務からは、6
〇〇組織の集落営農が
設立された大分県での
展開といった視点から
コメントが出された。

日本政策金融公庫前
橋支店の和田光史融資
課長は「宮田教授をは
じめ参加者との議論の
中で、農業金融の役割
やあるべき姿について
改めて考える機会とな
った。引き続き、互い
を高め合える場として
続けていきたい」と話
した。同大学の宮田剛

志教授は「農業金融の
最前線の現場の皆さん
に大変貴重な教育サー
ビスを提供してもらっ
たことを通じて、学生た
ちが自らの成長を実感
できていると考える。
このような場を設けて
もらうこと自体、全国
でもまれな取り組みと
考えるので、今後も、
関連する組織の皆さん
の無理のない範囲で、
前に進めていきたいと
考える」と話した。

※ 日本農業新聞 2025年10月24日(金)付。
※ 許諾を得ております。

金庫前橋支店は13日、前橋市のJAビルで、農業経済学を学ぶ高崎経済大学の学生との意見交換会を開いた。農業金融が果たす役割や農林水産行政の課題への理解を深めるのが目的。研究成果の発表や質疑応答などを通じて2時間近く意見を交わした。

同支店は日本政策金融公庫前橋支店とも連携し、同大の学生が農業金融を学ぶ機会を提供している。5回目となった意見交換会には支店側から職員6人、同大側から地域政策学部の宮田剛志教授と学生5人が参加した。

学生は、近年の集落営農組織の展望や県内の事例分析、経営所得安定対策などをテーマにした研究内容を報告。支店職員は自身の経験も踏まえ、研究の方向性を助言し、農業金融を巡る現場の実情を紹介した。

同日はこの他、現場の一端を知ってもらおうと、支店内の見学会も実施。23日には支店職員が同大を訪れ、農業金融について具体的な事例を用いて解説する特別講義を行う。

同支店の高木克尚副支店長は「意見交換ではわれわれも学びや気付きがある。農業や農業金融について関心を持つ機会となればうれしい」と話した。

※ 日本農業新聞 2026年1月14日(水)付。

※ 許諾を得ております。

農業法人の発展へ
高経大と意見交換

農林中央金庫前橋支店

農林中央金庫前橋支店は1月13日、農業経営をテーマにした高崎経済大生との意見交換会を前橋市のJAビルで開いた。同支店の職員と同大地域政策学部^の学生5人が農業法人の持続的な発展に向けて意見を交わした。写真。

同学部の宮田剛志教授のゼミナール生が、実在する県内の農業法人に対して行ったフィールドワークを基に機械更新や後継者確保などの課題を報告し、改善策を発表した。職員は農業を取り巻く現状や収益性の観点から助言を行った。

同学部4年の佐藤海さん



は「実務的な目線から意見をもらえた」と感謝した。3年の国光拓見さんは「ファイナンスの視点からも考えられて良かった」と話した。意見交換会は2023年12月から開かれており、今回で5回目。同支店の高木克尚^{とくしほ}副支店長は「調査を重ねることに成果が出てきている。今後の研究成果が楽しみですだ」と期待を込めた。

※ 上毛新聞（JAひろば） 2026年2月1日（日）付。

※ 許諾を得ております。

実務最前線を解説

農林中金
前橋支店 高崎経済大生に

【ぐんま】農林中央金庫前橋支店は23日、高崎市の高崎経済大学地域政策学部で特別講義を行った。高木克尚副支店長ら3人の職員が登壇し、同金庫・JAバンクの役割や支店の具体的な業務などを解説。農業経済を学ぶ学生に実務の最前線を紹介した。

高木副支店長は、同金庫の成り立ちや資金

の流れを説明しながら「農業生産力の増進と、農業者の経済的・社会的地位の向上を図るための組織だ」と強調した。

営業班からは高橋伸一、次長と伊藤佳里奈さんが登壇した。支店が行う地域での金融教育や担い手の成長支援、農福連携のマッチング支援などを説明。「地域を支え、社会課題の

解決に取り組んでいる」と、業務のやりがいや魅力を紹介した。

講義は宮田剛志教授が担当する「農業経済学」の1コマで、学生約70人が出席。水口剛学長も聴講し「農業現場の課題解決に金融は非常に大きな意味を持っている。現場で活動する人の話を聞くことができるのは非常に貴重な機会だ」と話した。

※ 日本農業新聞 2026年1月24日(土)付。

※ 許諾を得ております。

※ 学長の水口先生のコメントも掲載されております。

農業金融の役割紹介

農林中金
前橋支店

高経大で職員講義

農林中央金庫前橋支店は

1月23日、JAバンクと農業金融をテーマにした特別講義を高崎市の高崎経済大で行った。地域政策学部の学生約70人が参加し、農業者を支える同支店の取り組

みに理解を深めた。

農業経済学を学ぶ学生に同支店の地域に向けた取り組みを知ってもらおうと企画。同支店職員が講師となり、JAバンクの役割や農林中央金庫のリテール(金



融機能の提供)、食農、投資の三つのビジネスについて事例を踏まえて説明した。また、同支店が行う林業作業を支援するプロジェクト「援林支援隊」や経営課題の解決策を提案する「担い手コンサルティング」などを紹介した。

講師を務めた高木克尚（たかぎ かつしゅう）副支店長は「店舗数はゆうちょ銀行に続いて国内2位。何かあれば一番先に声をかけてほしいという思いから、『食と農林水産業のフアーストコールバンク』を目指している」と話した。写真。

※ [上毛新聞 2026年2月11日\(水\)付。](#)

※ [許諾を得ております。](#)